



【仕える存在をはっきりと選択する一年(3)】

聖書本文(暗唱聖句): ヨシヤ24章 15節

説教者: 鄭南哲牧師

今日の御言葉は、神様の人であるヨシヤが約束の地であるカナンに入った、イスラエルの民たちに向って彼の人生最後にのべたメッセージです。イスラエルの民たちが40年の長い荒野の生活を終え、新しい約束の地に入ってから、公には神様を信じていましたが、新しいカナンの文化にふれながら、彼らが仕えていた異邦の偶像に魅力を感じ始めました。一方では神様に仕えながら、もう一方はエモリ人の神々や、エジプトの神々、メソポタミヤの偶像に仕え始めたのです。二重、三重に揺らしていたイスラエルの民たちの信仰をみながら、ヨシヤは再び信仰の決断を促さなければなりません。指導者であったヨシヤは生涯を終える前に遺言のようなメッセージをイスラエルの民たちに言い渡したのです。つまり、ヨシヤは自分の最後のいのちの火種をもって、イスラエルの民たちに信仰の選択と緊迫性を訴えたのです。

<シェケムという場所>

いま、ヨシヤはシェケムという所にイスラエルの民を全部集めて、説教をしています。このシェケムという場所は[エバル山]と[ゲリジム山]の間の狭い山道として、イスラエルの歴史をさかのぼって行くと、信仰の先祖であったアブラハムがカナンの地に来てはじめてに祭壇を築き上げたところ。そして、後にヤコブがパダン・アラムからの帰途する時、シェケムの前で宿営しながら、神様の御前で祭壇を築いたところでもあります。そして、信仰の人であったヨセフの骨が埋められた場所でもあります。そして、神様からいただいた律法をヨシヤがもう一度朗読し、御言葉を解き明かした場所がこのシェケムでした。

このように、イスラエルの民たちにこのシェケムというところは神様の民たちがなにかの決断や、選択をするとき、覚えられ、歴史的にもとっても大切な場所であることがわかります。いまイスラエルの民たちには大切な信仰の選択をしなければならない課題が提示されています。つまり、神様を選ぶか、偶像を選ぶのかの岐路(きろ)に立たされているイスラエルの民たちをこのシェケムに集めたのです。そして、ここでイスラエルの指導者であるヨシヤは最後のエネルギーをしばって、イスラエルの民たちに“あなたがたの仕えようとしているものを選びなさい。”とはっきりとした選択を迫(せま)りました。今日のヨシヤ記をとおして神様が求めておられる信仰の対象への選択についてともに考え、我々ももう一度信仰の選択についての点検と信仰の再決断、再確信、再献身ができる大切な時間となりますよう切にお祈り申し上げます。

1. 信仰の選択の権利

我々が信じている神様は我々に強制的にさせるのではなく、我々に選ぶ権利をくださいました。神様は選ばれた人々の信仰によって仕えられる事を望んでおられます。ここで我々は神様が選択の権利、つまり自由がある選択の冒険を御存知でありながらも人間に選択の意志を授けてくださったことを覚える必要があります。ヨシヤはイスラエルに、主を選ぶことを強制せず、自由な主体的選択を迫りました。同じように、神様はイスラエルの民たちにされたように、こんにちの我々にも仕えようとするものを選ぶようにと言われます。信じて、仕えるために、仕えようとするものを選ぶのです。我々がイエスを信じることは神様に仕えようとする選んだのです。実際、人間は何か仕えなくては決して生きることができません。神様を拒んだ人は神様の代わりにほかの偶像を自分の神として仕えるしか選択しはありません。神様は今日その信仰の選択を我々にさせてくださっているのです。みなさんはだれを信じていますか。だれを信じようとしていますか。神様はその選択を我々に与え、決めるようにとさせてくださっています。

2. 信仰の選択の緊迫性

神様はヨシヤをとおして神様の民たちに信仰の対象に対する選択の緊迫性を知らせてくださっています。今日!今!自分たちの仕えようとしているものを選びなさいということです。明日、もしくは5年後に、10年後に選びなさいと言われませんでした。いまそれを決めなさいとその緊迫性を強調されました。これは後回しにできない重大なことです。

例)中世時代、ドイツの宗教改革者であったマルティンルテル先生が言われた有名な話があります。ある日、サタンの部下たちは人々を惑わすために地上に行く前に会合(かいごう)を開きました。サタンは部下たちに“おまえらはどんなやり方で人間を惑わすつもりか。”と聞きました。ある悪霊がこう言いました。“私は人々の思いに神なんかいないという疑いを入れます。”すると、サタンは“いままでずっとその戦略を使ってみたが、それはあまり通じなかった。人間の思いには神が生きていることを否定できない-宗教は否定するが、神は否定できない-宗教的本能があるためだ。だから、人々はまだ神を求めている情熱を持っているはずだ。その戦略は正しくない。”、そしてある悪霊は“わしは人々の心に[地獄なんかいない]という思いを入れます。それで人間を安心させ、地獄に連れてきます。”と言いました。サタンは“いや、その戦略も通じないだろう。人間は自分たちが生きているいまの世こそが恐ろしい地獄であると思っているので、地獄を信じるということはそんなに難しいない。だから、それも通じるはずがない。”すると、ほかの悪霊が言いました。“じゃ、そうするなら、わたしはクリスチャンをこう攻めて見ます。彼らに苦難と迫害を与え、この意識を与えます。イエスを信じれば、むしろ災いにあい、そして、必要なら、彼らを殺します。”それを聞いたサタンはまた引きとめながら、“それは私たちが完全に錯覚していた戦略だ。それは、一番使いにくいし、そして使ってはいけないのだ。長い歴史の間、数多くのクリスチャンを迫害し、殺したが、そのたびに、クリスチャンはむしろ主のために受ける苦難と迫害を喜び、栄光として受け入れるのだ。そして、さらにこれを見た人々はもっと信仰によって生きることを覚悟させるあやまちを、われわれサタンは何度も経験してきたのだ。”

すると、隅っこにいた悪霊が手をあげて言いました。“私には画期的な戦略があります。[そんなに急ぐ必要はない。ゆっくり信じなさい。]とささやきます。突然、地獄からはやかましい拍手の音がわき起こりました。サタンも満足そうな笑顔で叫びます。“そのとおりだ。!わしらが、その戦略でいままでたくさん人間たちをとらえたのではないか。!”聖書には“あなたがたは今日仕えるものを選ぶが良い。”“確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。(第二コリント6:2)”と書かれています。神様は我々に神様を信じる信仰の選択を後回しにしてはいけないし、今日、いま、現在選択すべき重大性と緊迫性を求めておられるのです。

3. 信仰の選択の公開性

今日ヨシヤをとおしてくださるメッセージから知らされることは、神様を信じるこの信仰の選択は公開的でなければならないということです。ヨシヤはイスラエルの民の前で公(おおやけ)に信仰の選択を要求しました。だれもが結婚する時、そばにいる人を新郎として、新

婦として受け入れることを人々の前で、公に宣言します。ほこらしい自分の新郎(新婦)であることを宣言し、公に祝っていただきます。両方とも自分の伴侶者として堂々と宣言するため恥ずかしいことはありません。

愛する信仰の家族のみなさん! 一生をともにする伴侶者を公に公開し、選ぶのであれば、永遠のいのちをにぎっておられる尊い神様を受け入れることを公に選択しない理由はあるのでしょうか? ある方々は自分がクリスチャンであることを周りの人々が知らないほうがまだと思う人もいます。別に知らせたがらなく、なおさら公に表わしたがない傾向があります。しかしみなさん! 我々が信じる神様が生きておられ、まことの神様であり、我々が選んだ信仰が偽りではなく、まことの信仰であるならば誰にでも恥ずかしがる必要もなく、隠す必要なんかあるわけがないのではないでしょうか。みなさんはみなさんの周りの人々がクリスチャンであることを知っていますか。(「ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います」(マタイ10:32-33)、「もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします(ルカ9:26)」、「そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。9 しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。(ルカ12:8-9)」

<選択の出発点と家庭の大切さ>

“あなたがたが仕えようとおもうものを選びなさい。”と宣言したヨシュアは続けて自分の告白をします。これは選択の告白です。ヨシュアは説教だけで終わったのではなく、自ら自分はどんな選択をしたのかを公に告白しています。“私と私の家とは、主に仕える。”

まず彼の信仰の告白は“私”から始まります。選択はまず自分から始まらなければなりません。信仰は私の選択が大切です。私の決断が大切です。信仰はほかの人ではなく私から始まらなければなりません。神様の前での信仰は個人的な自分の決断なのです。しかし、ヨシュアは自分だけが神様を信じるその信仰で満足していません。彼は信仰の尊さを知っていたため、信仰の選択の祝福を愛する家族と分かち合いたがります。そういうわけで彼は彼と彼の家は神様に仕えることを告白したのです。

愛する信仰の兄弟、姉妹のみなさん! 神様は家庭を大切に思われます。旧約の創世記から新約の黙示録まで聖書は家庭の大切さを強調しています。旧約のノア時代にこの世が悪に満ちた時、神様はノアと彼の家族を救ってくださったのを聖書からみることができます。パウロとシラスがピリポの牢屋で牢屋を守っていた看守に救いのメッセージを伝える時、“主イエスを信じなさい、そうすればあなたもあなたの家族も救われる”と言ったことをみなさんも御存知です。神様の御言葉から家庭の救いを願われている神様の御心を知ることができます。

ある詩人は“人間が樂園を失った以降この樂園と一番似ていることがあれば、それは家庭だけだ。家庭を失った人はすべてを失った人だ。”と言いました。家庭は人間が所有できる一番美しい信仰、愛、平安があるところなのです。神様はこの家庭に祝福を注ぎたがっておられます。この家庭に永遠のいのちを与えたがっておられます。そういうわけで神様はみなさんの家庭の主となることを願っておられるのです。いまみなさんの家庭はだれが治めていますか。サタンが家庭を治めているとしたら、家庭はもじ通り地獄でしょう。反面、神様が家庭を治めておられるなら苦しみ、悲しみの多いこの地においても小さい天国を味わえると信じます。家庭は幸福と救いの出発点です。家庭の尊さを悟っていたヨシュアは訴えます。“私と私の家とは、主に仕える。”

今日ヨシュアは仕えようと選んだ神様はどんな方ですか。17節をみてみてください。“私たちの神、主は、私たちと私たちの先祖たちを、エジプトの地、奴隷の家から導き上られた方、私たちの目の前で、あの数々の大きなしるしを行い、私たちの行くすべての道で、私たちの通ったすべての民の中で、私たちを守られた方だからです。”と記されています。その神様は贖い主であり、全能の神様であり、守って下さる神様です。

もしかするとまだにはっきりと信仰を決めてないまま迷っておられる方々はいませんか。そうするなら神を選ぶ時、このような神を選ぶことをお勧めします。一つ目に、あなたを救える神を選んでください。あなたが信じる神があなたを救い、罪から自由にさせないなら何の意味がないからです。二つ目に、全能の力のある存在をあなたの神として信じて下さい。人によって作られた無力なものを信頼しないでください。三つ目に、みなさんの人生に関心をもっておられる人格的な神、つまり、みなさんの人生にとともにおられ、愛と関心をもってかえりみ、導いて下さる神を選んでください。ヨシュアが今日イスラエルの民族に提示する聖書の神様は、唯一救いの神であり、全能の神、我々を守って下さる方であることを証しています。聖書は“あなたがたは仕えようとおもうものを選びなさい”と促しています。

それでは我々はそのまことの神様をどうやって仕えましょうか。14節に“いま、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕えなさい。”と言いました。ここで誠実ということばは“分かれぬ心”という意味です。真実ということばは“移り変わりが無い心”という意味です。このメッセージをのべたヨシュアは言葉のどおり神様に一生仕えました。ヨシュアは若い時に神様を選びました。そして死ぬ時まで誠実と真実をもって神様に仕えました。そして、死んだ後もいままであの天国で神様に仕えていると信じます。愛するみなさん! つかえるということはこの地上での死と同時に終わりますが、永遠の神様に仕えたと永遠にあの天国でも続くでしょう。

【だから彼らは神の御座の前において、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。16彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。17なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。】(ヨハネの黙示録7:15-17節)

今日ヨシュアをとおして下さる御言葉が新年を迎え始まっている自分たちとそれぞれの家庭に信仰の新たな覚悟と決断へのチャレンジの御言葉となりますように祝福します。

“もし主に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、いまあなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、主に仕える。! アーメン!!”2012年、今年も分かれぬ誠実さと、移り変わりが無い真実をもって、神様を信じ、仕えようともう一度決断する人間となりますよう切にお祈り申し上げます。アーメン!